

陸自訓練場反対 立場超え団結



陸自訓練場の断念を求めて団結ガムパローをする赤嶺氏（前列左から2人目）ら国会議員と参加者ら=20日、沖縄県うるま市

ました。

元国民党県議で、求める会の伊波洋洋共同代表が開会あいさつ。地元に一切知らせず一方的に計画を決めた国の大騒動に怒りを示し、故翁長雄志知事が名護市辺野古の新基地建設反対に立ち上がりたよつて、改革を超えて團結する意識を強調しました。翁長氏の生前の訴えにならい、「うちなー、うじょーらつてーならんどー（沖縄を悔ってはならないよ）」と力を込めました。

伊波洋正事務局長は「保守、革新を問わず、みんなでまとまれば國も動かすことができる」と強調。中村正人市長も参加し、「自粧撤回を粘り強く訴え、ともに力を合わせ頑張る」と述べました。

石川代表の眞議、市議、ゴルフ場跡を抱える地元・旭区の代表、若者、高校生の弁士も「絶対反対」「即刻断念を」と訴えました。

玉城アニー知事のメッセージが読み上げられたほか、照屋義実副知事や日本共産党の、あかもね政賛衆院議員ら県選出野党国会議員も駆け付け、紹介され手が会場じゅうに響き渡りました。

沖縄・うるま 市民集会に1200人

沖縄県うるま市石川のゴルフ場跡に防衛省が狙つている陸上自衛隊訓練場の新設計画をめぐり、「住宅地む1200人（主婦者発表）が会場を埋め尽くしまし」と断念を求める市民集会」が20日、同市石川で開かれました。保守、革新を超えた石川の17団体が加盟し結成し、保け検討に入つたと報じられた。防衛省も計画の断念に向かうと、(防衛相から)断念した。